

福岡伸一氏講演会「センス・オブ・ワンダーを探して」報告

小川真理子

無観客でしたが、福岡伸一さんの「センス・オブ・ワンダーを探して」という講演会を行いました。

センス・オブ・ワンダーが彼をどのような不思議な旅に連れ出してくれたのか、という話です。無類の虫好きだった福岡少年に、ご両親はある日顕微鏡を買ってくれました。顕微鏡で見える世界の素晴らしさ、それに感激した少年はこのすごい顕微鏡を作ったのは誰か、いつ、どこで？と興味が広がり・・・ついには生物学者となって「動的平衡」の考えにたどり着くのです。また少年の頃顕微鏡について調べていた時、顕微鏡を作ったレーウエンフックと同じ町、同じ年に生まれた画家がいたことを知りました。生物学者としてニューヨークで学んでいた時偶然入った美術館にその画家、フェルメールの作品があったことからフェルメールとレーウエンフックの関係や作品にのめり込んでいき、とうとうフェルメールの作品の偽物、本物よりも本物に近い偽物を作ってリクリエイト フェルメール美術展を全国で開くまでになりました。またそこから「日本にこんなフェルメールオタクの生物学者がいる」と世界中に伝わって・・・

『動的平衡』や『フェルメール 光の王国』（いずれも木楽舎）などで断片的には知っていたのですが、それらがセンス・オブ・ワンダーという不思議な糸で紡がれていたということがよくわかるお話で、センス・オブ・ワンダーの力を改めて実感しました。

後半は上遠さんとの対談が行われ、レイチェル・カーソンをテーマに、お二人のカーソンに対する思いとセンス・オブ・ワンダーの感性を育む大切が伝わって来ました。